

企業繁栄のアドバイザー

未来税務会計ニュース

さあ、今から創造的復興だ！

早いもので今年も半分、6ヶ月が経過しました。後半になります。年齢と共に1年が早いこと早いこと。7月は夏のボーナス、お中元、また初盆等、色々な行事が入ってまいりますね。当事務所も6月末で熊本地震での被害の復興が完了して後半6ヶ月で経営目標に向かって努力する所存です。ところで今、金融機関はどのようにして決算書・経営者を見ているのでしょうか？金融庁も貸付金に対して担保を取るといことよりも、どれだけ地域経済を担う企業等に対して、支援しているのかという評価の視点が変わってきています。JA金融法務6月号より抜粋して報告しますと、

(Q1) 事業性評価融資とは何ですか？

(A1) 金融機関は、財務データや、担保、保証に必要以上に依存することなく、借り手企業の事業内容や成長可能性などを適切に評価し(事業性評価)、融資や助言を行い、企業や産業の成長を支援していくことが求められています。

(Q2) どんなどころに目をつけて見るのですか？

- (A2)
1. 融資先企業の財務内容(財務情報)
 2. 経営者の資質、経営能力
 3. 外部環境の変化
 4. 競合他社の状況や差別化要因等
 5. 企業の強みや競争優位性、弱み、SWOT分析
 6. 経営戦略、経営課題
 7. 今後のアクションプランと実現可能性
 8. 内部管理体制

(Q3) 財務内容について教えてください。

- (A3)
1. 売上高増加率(売上持続性)

$$= \frac{\text{当期売上高} - \text{前期売上高}}{\text{前期売上高}} \times 100$$
 2. 売上高営業利益率(収益性)

$$= \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$$
 3. 労働生産性(生産性)
 - ①機械投資効率 ②加工高比率 ③加工高対人件費比率

- ④労働分配率 ⑤従業員1人当たり年間売上高(加工高)
4. EBITDA有利子負債倍率

$$= \frac{\text{有利子負債}}{\text{EBITDA}}$$
 ※EBITDAとは
 税引前当期純利益+(特別損益+支払利息+減価償却費)
5. 営業運転資本回転期間(効率性)

$$= \frac{\text{(売上債権+棚卸資産-仕入債務)}}{\text{(売上高} \div 12)}$$
6. 自己資本比率(安全性)

$$= \frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$$

(Q4) 非財務内容ではどのようなものがありますか？

- (A4)
1. 経営者への着目
 - ①経営者の思いやビジョン ②経営理念
 - ③企業経営の目的 ④地元経済界との交流・立場
 - ⑤やる気 ⑥仕事ぶり
 2. 関係者への着目
 - ①市場規模 ②シェア ③競合他社との比較
 - ④顧客リピート率 ⑤主要取引先企業の推移
 - ⑥協力業者の営業外経費率 ⑦取引金融機関の数推移
 3. 事業への着目
 - ①事業の高流 ②ビジネスモデル ③製品サービスの内容
 - ④製品原価 ⑤企業の沿革 ⑥事業用資産の有効活用
 - ⑦技術力・販売力の強み・弱み ⑧取引先数分散度
 4. 内部管理体制への着目

(Q5) 経営者能力・経営戦略の評価項目と着眼点はどこですか？

(A5) 図表の通りです。

評価項目		着眼点
A 経営者能力	①人間力	意思の強さ、行動力、リーダーシップ、柔軟性をもっているか等
	②技術力	地域の標準単収以上の生産技術を有し、技術向上に努めているか等
	③マネジメント力	財務状況を把握し、経営課題に対して機動的に対応できるか等
	④地域親和力	地域の中で円滑に経営展開できているか等
B 経営戦略	①明確性	経営理念、将来ビジョンは明確にされているか等
	②具体性	経営の強み・弱みを踏まえた具体的な経営戦略が立てられているか等
	③必要性	事業は経営戦略上必要であり、実施のタイミングは適切か等
	④実行体制	事業を実行する役員員の役割分担と責任が明確化されているか等

(Q6) SWOT分析とはどんなことですか？

(A6) 自社の強み(S)、弱み(W)、外部環境からの機会(O)と脅威(T)です。表にすれば以下の通りとなります。

		外部環境	
		機会(O)	脅威(T)
強み(S)	内部環境	A: 農地集積の加速化 D: 地域の離農者が多い	B: 補助金の仕組みや対象者の度々の変更 C: 米価は長期的に下落傾向
		①【積極的な攻勢(攻め)】 《戦略》 ・農地集積による規模拡大 ・米乾燥調製施設の更新による処理能力の向上 《戦略実施の課題》 ・経営の規模拡大に伴う農地集積の計画策定と進捗状況の確認 (担当者: 代表取締役)	②【差別化の促進】 《戦略》 ・商品の差別化による販売力強化 ・J-GAPを生かしたブランド化 《戦略実施の課題》 ・商品のブランド化による付加価値向上 (担当者: ▲取締役)
弱み(W)	内部環境	ウ: 気象等の影響で低迷 エ: 価格交渉力が乏しい オ: 債務超過 カ: 乾燥調製施設の老朽化 キ: 保管場所(倉庫)の不足 ク: 保管倉庫が遠方で作業効率・コストが発生	③【段階的な着手】 《戦略》 ・老朽化した施設の再整備による効率化 ・保管倉庫の設置の検討や外部委託業者の見直しによるコスト削減 《戦略実施の課題》 ・米の保管方法の見直しによるコスト削減 (担当者: 代表取締役)
			④【専守防衛(守り)】 《戦略》 ・収益構造を改善 ・収量低迷の原因分析と対策(生産技術や品種の導入等)を図る 《戦略実施の課題》 ・収量安定化に向けた対策と生産技術の導入 (担当者: ○▲取締役)

(Q7) 経営者としてもっと勉強したいのですが、どうしたらいいですか？

(A7) 当事務所ではMAS監査をやってます。具体的には経営計画(1年ごと・5年ごと)立案サポートや経営計画に沿った経営サイクル(PDCA)の確立サポート、また決算書から見る経営課題を抽出し、リスク改善への糸口を見出す決算分析を行います。詳しくは当事務所4人の未来会計コンサルタントにご相談ください。

取引相場のない株式の評価の見直し

平成29年度税制改正では、取引相場のない株式について、相続税法の時価主義の下、より実態に即した評価の見直しが行われることになりました。



上場企業の株価の上昇に伴い、中小企業の中には、業績に大きな変化のない状況下であっても、想定外に株価が高く評価されることにより、円滑な事業承継に影響を来す可能性が生じていること、また、上場会社のグローバル連結経営の進展や株価の急激な変動が、中小企業の円滑な事業承継を阻害することなく、中小企業等の実力を適切に反映した評価となるよう見直しを行う必要があることから、平成28年度税制改正において、早急に総合的な検討を行うとされていたものです。

【平成28年度与党税制改正大綱(抜粋)】

取引相場のない株式の評価については、企業の組織形態が業種や規模、

